

平成29年度 第1回学校評議員会報告

- 1 日時：平成29年5月16日（火）15：30～16：30
- 2 場所：本校応接室
- 3 出席者：学校評議員5名、PTA2名、学校5名（校長、副校長、事務長、総務主任、総務担当）計11名
- 4 次第：（1）学校評議員委嘱 （2）校長あいさつ （3）出席者自己紹介 （4）学校概況説明
（5）学校経営計画について （6）質疑応答
- 5 内容：【校長挨拶】

大野中学校から27名、久慈中から2名、沼宮内中から1名の合計30名の新入生を迎えた。芸術の選択科目である工芸は、入学者減少のため開講が危ぶまれたが、受講者を確保でき、開講することができた。生徒数の減少に伴って部活動の存続が課題となってくるが、生徒の活動の保証のため、学校一丸となって努力していきたい。

【学校概況説明】

副校長より口頭説明

【学校経営計画】

資料により校長より説明

【質疑応答】

A氏：部活動について、卓球部は現在どのような状況か。

校長：女子4人、団体はぎりぎりのメンバー。シングルスで優勝できる生徒、ダブルスで優勝できる生徒はいるが、団体戦で県大会優勝できるかどうかは半々。男子も同様に厳しい状況にある。

B氏：部活動では3年生が引退すれば危機的状況にあるようだが、心身の発達において、部活動はとても大切だと思うので活動を継続して行ってほしい。

校長：中学校では休部に関する規定はありますか。

C氏：一定年数公式大会に出られないと休部になるという規定がある。

C氏：家庭学習時間の少なさ、特別な支援を必要とする生徒、キャリア教育の充実等、中学校での課題が高校で大きくなっているように思われる。中学校でできる部分は協力、連携したい。

D氏：平成31年度に学級減とあるが、大野高校がなくなるのではと懸念している。また、大野高校の強みと弱みとは何か。

校長：中学校の生徒動向をみると、大野高校は1クラスで留まる見込み。大野高校は生徒の人当たりがいいのが強み、弱みは社会を知らない面があること。

D氏：大野中学校から大野高校に入学してくる生徒はどれくらいか。

校長：その年によってばらつきはあるが6割程度。

E氏：存続のためには学校の魅力を高めることが要になる。工芸の授業、介護初任者研修、里山整備等、地域との関わりが必要。また、学力向上にも力を入れてほしい。

F氏：大学進学希望者は何人か。

総務：4年制大学希望者は現在6名。

F氏：大野中以外からの生徒が少ないのはアピール不足では。

D氏：何が家庭学習を阻害しているのか。

C氏：家庭環境が影響している場合もあるが、SNSやスマホ、ゲームの普及も関係している。

校長：求められる学力も変化ってきていて、学校でも試行錯誤が必要になってくる。

D氏：公立高校において、部活動で活躍している中学生のスカウトはできないのか。また、大野のスクールバスを久慈に走らせることはできないのか。

校長：スカウトはできない。スクールバスを久慈に走らせることも規定上できない。

- 6 その他：次回の学校評議員会は3月6日（火）に開催予定である。